

事業成果報告書

※後日、フォーマットをメールで送信いたしますので、次のアドレスにメール添付でお送りください。

竹村和子フェミニズム基金 <t-fund@npo-ochanomizu.org>

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
堀川 修平	
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
現代日本の性教育実践における同性愛／同性愛者の捉えなおしに関する歴史研究をもとにした、書籍『気づく 立ちあがる 育てる—日本の性教育におけるクィアペダゴジー』の出版	
3. 助成額	
500,000 円	
4. 実施期間	
2021 年 7 月 ～ 2022 年 6 月	
5. 実施状況	
2021 年	
5 月～6 月	単行本全体の企画構成案の作成
6 月～12 月	執筆者による加筆修正作業(ライフストーリーの掲載確認も含む)
12 月中旬	完成原稿をエイデル研究所に送付
2022 年	
～1 月中旬	校正ゲラの作成(出版社)
1 月下旬	著者校正①
2 月中～下旬	校正ゲラの修正作業(出版社)
2 月中旬	著者校正②／装丁などの検討
2 月上旬～	校正ゲラの修正作業(出版社)／素読み作業
2 月下旬	執筆者による最終校正
3 月下旬	最終調整・入稿作業
4 月上旬	印刷所に入稿
5 月上旬	見本誌の完成
6 月上旬	流通開始
6. 事業成果と自己評価	
(1) 事業成果(成果物の詳細)	
A5 版・並製・264 頁・縦組み	
初版発行部数: 1,000 部	
初版発行日: 2022 年 6 月 1 日	

発行元:エイデル研究所

本体価格:2,200 円(+税)

(2) 自己評価

本基金への応募の目的は、応募者による博士論文である『日本の性教育実践における同性愛／同性愛者のとらえなおし——“人間と性”教育研究協議会「同性愛プロジェクト」(1988-1991)を担った教師たちのライフヒストリーに着目して』(東京学芸大学)をもとにした出版助成であった。

クィアペダゴジー(Queer pedagogy)とは、ヘテロノーマティブ(異性愛中心的な性規範)の教育実践や学校のあり方を改革し、ジェンダー・セクシュアリティといった〈性〉に関わる権力性を問い直す教育実践である。

本書『気づく 立ちあがる 育てる』では、日本の性教育実践で積み重ねられていたクィアペダゴジーについて、実践そのものはもちろん、教師が実践を開発した展開やその背景にあった教師たち自身の課題意識・子ども観・ジェンダー観をライフヒストリーに着目し明らかにした。ヘテロセクシュアルの教師が、教師自身の同性愛者観を問い直したこと、その問い直しによって得られた知識や経験をクィアペダゴジー開発に活かしていった歴史的展開を示している。

本書『気づく 立ちあがる 育てる』の刊行によって、①出版社の特性上、多くの性教育実践者・理論研究者の目に触れるものとなり、性教育におけるクィアペダゴジーそのものの歴史を伝えることができること、②実践の背景にある教師自身の課題意識を重視する方法論を提示することで、読者たちに、自己の性教育実践を振り返ることの重要性を考える 1 つのきっかけを作ること、③ジェンダー平等を目指すための教育実践としてパッケージ化された教材に頼るのではなく、教材研究を通して開発することの重要性とその面白さを教師や教師志望の学生に伝えることができるという効果が期待できる。

①に関しては、すでに『季刊セクシュアリティ』上「図書紹介」において掲載が予定されていることがあげられる。また、現在、性教協内において、本書を用いた学習会を実施することを出版社であるエイデル研究所と協議を重ねている。②・③に関しては、具体的に本書の内容を伝えていくという点において、「ふえみ・ゼミ」における「フェミニズムのためのベーシック講座(2022 年度)」の教科書としての利用が決定していることがあげられる。応募者の大学における授業での教科書としての利用もすでに検討しているが、大学内に限らず、広くジェンダー・セクシュアリティ平等を目指す人びととの学習に用い、②・③にある「きっかけ作り」に役立てたい。

現在進行形ですすすめられている点も含め、以上からも、これらの3点は、本書の刊行によって達成できたと考えている。

7. 提出成果物

出版助成を得て刊行された書籍

書籍名:『気づく 立ちあがる 育てる——日本の性教育史におけるクィアペダゴジー』

著者名:堀川修平

